

[成果情報名] アユ中間育成事業基本マニュアルの改訂

[要 約] アユ中間育成事業基本マニュアルについて、池入れ種苗の大型化等に伴い事業者が利用しやすいよう改訂を行った。

[部 署] 山形県内水面水産試験場・生産開発部

[連絡先] TEL 0238-38-3214

[成果区分] 普

[キーワード] アユ中間育成事業、マニュアル、改訂

[背景・ねらい]

県内アユ中間育成事業者の手引書として利用されているアユ中間育成事業基本マニュアル（全22ページ、平成10年人工産アユ中間育成技術指導要領、平成23年アユ中間育成事業基本マニュアル、以下マニュアルという）について、池入れ種苗の大型化等現状に合わなくなった部分が出てきたため、事業者が利用しやすいよう改訂を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 大型種苗の輸送方法を追加（マニュアル項目番号：3、3-2、3-2-2）

公益財団法人山形県水産振興協会から出荷される中間育成用アユ種苗が、受入れ側事業場の希望で大型化していることに伴い、魚体重 0.6g を想定して輸送方法を記載している部分について、より大型種苗の輸送にも対応できるよう改訂し、また、輸送計画の策定についても事前に打ち合わせするよう注意事項を記載した。
2. 池入れ時の注意事項を追加（マニュアル項目番号：3-3）

輸送した稚魚を池入れした後、注水量を抑え過ぎて酸欠気味になるケースが見られることから、池入れ当日の管理方法を具体的に記載した。
3. 飼料サイズの見直し（マニュアル項目番号：4、4-1）

中間育成で使用する飼料サイズについて、旧マニュアルでは平均魚体重6gの放流稚魚を想定して、クランブル1号(直径約0.5ミリ)と2号(直径約0.8ミリ)しか使用しないと記載されていたが、10g程度の大型放流魚を求める漁協があることや飼料費削減にもなることから、平均魚体重5g以上から給餌できるクランブル3号(直径約1.0ミリ)の使用方法について記載した。
4. 水車利用の注意事項を追加（マニュアル項目番号：付記4）

飼育池に水流を起こすと同時に酸素を補給する水車の使用開始について、具体的に記載した。

[成果の活用面・留意点]

1. 改訂したマニュアルは県内のアユ中間育成事業者に変更点とその理由を説明のうえ配布した。
2. アユ用配合飼料の一般的な価格でクランブル3号は同1号や2号に比べ2～3割程度安い。

[具体的なデータ]

【アユ中間育成事業基本マニュアルの主な改訂部分を下線で表記】

3. 飼育池の準備と種苗の輸送 (P7)

中間育成用種苗は2月中旬～4月上旬に平均魚体重 0.6～2.0gで出荷されます。各施設で時期は異なりますが、池入れ前には飼育池及び飼育器具類の消毒を完了させておく必要があります。消毒方法は次項のとおりですが、余裕を持って実施しておいて下さい。

3-2. 種苗の輸送 (P8)

(1) しっかりした輸送計画を立てることが重要です。日程、数量、稚魚のサイズ、必要な輸送回数等について、担当の指導機関や栽培センターと事前に打ち合わせをして下さい。

3-2-2. 平均魚体重 0.8g を超える稚魚の輸送 (P8)

(1) 平均魚体重 0.8～1.4g までの稚魚は、水槽 1 トン当たり 2.0 万尾を上限とします。また、1.4g を超える稚魚の場合は、栽培センターと相談して下さい。

(2) 分散器は放流稚魚と同じものを使用します。ゲージの圧力は、0.5～1.0kg/cm²を基本としますが、酸素の量は栽培センターの指導に従って下さい。かなり酸素を消費しますので、予備の酸素ポンベも準備して下さい。

3-3. 飼育池への放養 (P9)

(1)～(3) 略

(4) 池入れ当日の注水量は、3 回転/日を目安とし、酸欠を防ぐとともに輸送で使用された 1/5 海水から速やかに淡水となるようにします。

4. 給餌管理 (P9)

(途中省略)

配合飼料はクランブル 1 号、2 号を主体に場合によっては 3 号まで使用します。小さいサイズほど飼料単価が高いのですが、サイズの大きな飼料を早くから用いると成長にバラツキがおこり(小さな個体が多くなる)、放流には適さない個体の出現や共食いの原因となって無駄が多く出ることを念頭に入れておいて下さい。

4-1. 飼料サイズと給餌 (P9)

(1) 放養後から平均魚体重 2g まではクランブル 1 号を用います。2g から放流サイズまでは 2 号サイズに移行しますが、1 週間程度は 1 号、2 号の混合給餌を行って下さい。なお、5g 以上になったら 3 号を与えることも可能ですが、飼料メーカーによって多少餌のサイズが異なりますので、使用する前に担当の指導機関と相談して下さい。

付 記 4 水車利用における諸注意 (P21)

(1)～(3) 略

(4) 平均魚体重が 1g 以上になったら十分に遊泳力がありますので、酸素が不足した時は必ず水車を回して下さい。

[その他]

研究課題名：増養殖技術指導

予算区分：県単

研究期間：平成 26 年度 (平成 25～29 年度)

研究担当者：阿部信彦

発表論文等：なし